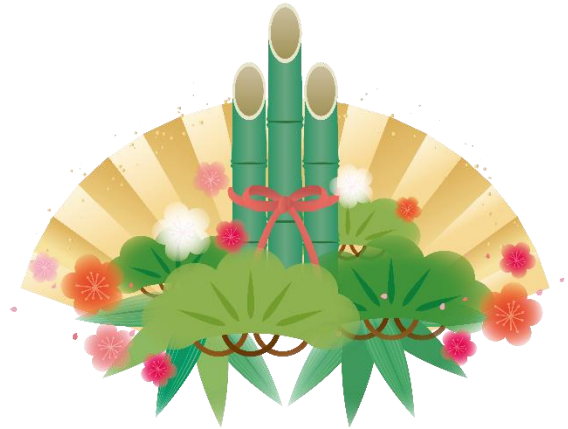
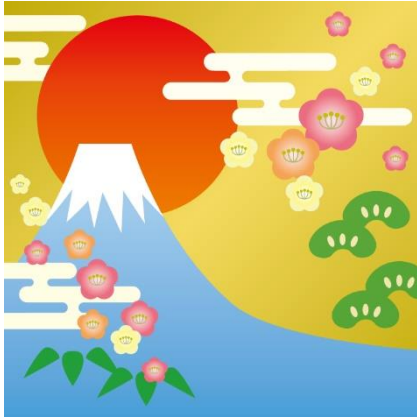


全難聴女性部だより 第47号

令和4年1月4日発行 発行人：加藤千津子 編集：事務局



新年のご挨拶

副部長 主藤 京子

明けましておめでとうございます。

皆様方には日頃より女性部活動に対してご理解、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。昨年10月末に全難聴機関誌『難聴者の明日』女性部ページ掲載のためのアンケート調査を実施しました。各協会の女性部員並びに女性会員の方々にはご協力をいただきまして有難うございました。一部地域には配布の不便さがありましたが、短い期間にもかかわらず、予想以上の回答をいただき厚くお礼を申し上げます。戴きましたご意見やご要望はこれからの女性部活動に役立てまいります。なおアンケート集計結果はこの『だより』1月号にも掲載していますので御目通しをお願い致します。

2年におよぶ新型コロナウイルス感染症は収束に至らず、第六波への懸念もあります。基本的な感染予防対策のマスク着用は聴覚障害者の日常においてコミュニケーション障害となっています。マスクで声がかもり、話が聞きづらい。マスクに隠れて顔の表情や口の動きが読みとれないため、相手が何を話しているか分からない。また人が集まる場所には飛沫防止で透明アクリル板等が設置してあります。通じないストレスが溜まる一方でした。しかしそのアクリル板に音声認識技術で話した言葉を字幕として表示できる「システム」が開発されました。昨年11月より横浜市の区役所で実証実験が行われています。アクリル板を挟んで相手の非言語コミュニケーションを見ながら、リアルタイムの文字を読むことで、スムーズに意思疎通が図れます。いち早くの実用化が待たれます。

さて来年度の県部長会、総会の開催地は長野です。女性部は全難聴機関誌で「女性会員同士の心を繋ごう。心をつなぎ大きな輪になろう」という新年の挨拶を詩っています。まずは総会にご出席ください。地域の状況やご意見、ご要望等を話し合い、情報を共有しましょう。心をつなぎ、より良い活動に繋げていきたい、どうぞ本年もよろしくお願い致します。

新年のごあいさつ

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
理事長 新谷友良

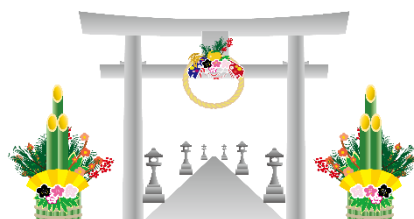
明けましておめでとうございます、新型コロナウイルス感染拡大で大変な毎日が続く中、加盟協会の皆さまには様々な面で全難聴の活動を支えていただき感謝申し上げます。

すでに『全難聴便り』などでご連絡しておりますが、昨年6月全難聴は通常総会をオンラインで開催し、加盟52協会のうち出席36協会、表決委任16協会が無事事業報告・決算報告の承認を頂き、新たな役員を選出することが出来ました。改めて加盟協会の皆さまにお礼申し上げます。また、総会の席上、全難聴の活動に対して多くの忌憚のないご意見を頂きました。全難聴の活動に対する皆さまのご提案・ご期待に応えるよう、役員一同心を新たに今年度の活動を行ってまいります。

昨年は、障害分野では障害者差別解消法の改正が実現し、事業者においても合理的配慮の提供が努力義務から法的義務に改められました。また、障害者福祉に係わる障害者総合支援法の見直し議論が継続され、全難聴も障害認定の見直しや意思疎通支援事業の改善などの意見を提出しました。これらの団体意見を踏まえて、社会保障審議会障害者部会で障害者総合支援法改正についての中間報告がまとめられる予定となっています。

このような法整備の進展は、障害者権利条約の批准を受けた国内法整備の一環であり、昨今各方面で取り組まれているSDGsなど多様性を許容する共生社会実現への取り組みが後押ししています。そのような歩みの一方、私たちの周りでは社会の格差が広がる現実を実感します。災害・疫病などがもたらす社会の緊張は私たち社会的弱者を直撃します。新型コロナウイルス感染拡大の中で、多くの感染者が自宅療養を余儀なくされました。幸いにして深刻な事例には接していませんが、周りとのコミュニケーションが出来ないままに自宅療養を強いられている一人暮らしの高齢難聴者の毎日が大変心配です。

今年も、新年のご挨拶に適切な言葉が見つかりません。現在小康を保っているコロナ感染も、新たな変異ウイルスの出現などでどのようになるか予断を許さない状況です。ワクチンに加えて治療薬が普及し、インフルエンザなどと同様なコロナとの共存が可能となるまで、皆さま力を合わせて何とかこの1年を乗り越えてまいりましょう。皆さまのご多幸をお祈りします。



令和4年 役員・県部長・窓口からご挨拶



☆部長・東海ブロック長・岐阜県部長：加藤千津子

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

我が家のお雑煮を紹介します。お餅に正月菜のみ、食べる直前に花かつおをかけて食べます。いたってシンプルです。岐阜県は、このお雑煮が一般的です。

実家は、これに蒲鉾又は、なるとを入れたお雑煮でした。

また、嫁ぎ先（加藤家）は、大みそかに里芋、牛蒡（ごぼう）、人参、大根等の根菜と、糸切昆布に豆腐を入れた煮物を食べます。これは、昔から岐阜の田舎では、大みそかの歳取りのおかずとして頂いてきた伝承料理です。

☆副部長・横浜市：主藤京子

明けましておめでとうございます。本年は皆様に対面でお会いすることが出来ますように願っています。我が家の正月料理は昆布と削り節で出汁を取ることから始めます。必要な出汁を纏（まと）めて取り、いり鶏やだし巻、お雑煮等に使います。生まれは山口県ですが小さい頃の雑煮は醤油ベースのあん餅でした。あん餅雑煮で有名なのは香川県ですが白味噌仕立てです。あん餅の甘さ、いりこの出汁、醤油の塩気で独特の美味しさでした。

☆事務局長・茨城県部長：佐藤緑

謹んで新年のお慶びを申し上げます。



お雑煮は、実父のお手製。具は鶏肉、醤油ベースに、人参、大根、ごぼう、せり、小松菜、春菊、なると、みつ葉、椎茸、昆布、ネギ。石油ストーブで焼いた角餅を入れます。でも大晦日から根菜の具を切るのは母。時には何か買い忘れ、不機嫌になりつつも完成させる父でした。

15歳で秋田県北を離れた父からして、望郷と家庭を持った嬉しさが具沢山の雑煮となったのかもしれませんが、もう、頂くことは出来ない今、懐かしく思い出します。

☆会計・埼玉県窓口：磯島都子

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

我が家の正月は主（あるじ）の仕事が休日返上!! 息子、娘たちはそれぞれに楽しみもあるので昔ながらの賑やかさは薄らいでしまいました。従って余計なものは作らず、のんびりと短い冬眠も悪くないなあ～

z z z ・ ・ (*^。^*)

でも、暮れは餅など子供たちに送り大忙しでした。特に豆餅が人気で具沢山（人参、大根葉、黒豆、落花生など）なので正月終わっても催促があり嬉しい悲鳴です。落ち着いたらゆっくり温泉にでも浸りたいと思います。



コロナ禍も現在は減少傾向とホッとしたのも束の間、その後に又、新しい変異ウィルスの出現で不安に駆られる最近です。今年の災害は猛寅で追っ払い白鳥のように優雅に舞っていきたいですね。

写真は毎年、私の地元、栃木県大田原市の2つの沼に舞い降りる白鳥です。30羽ほどいますが沼の住処(すみか)が良いので悠々と羽を広げていました。今年こそ素晴らしい1年でありますように。



☆事務次長・近畿ブロック長・京都府部長：片山ひろみ

『謹賀新年』 本年も何卒よろしくお願いいたします。

私の人生に於いて、創作布花の存在は大きく、生活の中に入り込んでいます。



お正月用のアレンジと薔薇

お正月は玄関に写真のような布花アレンジの作品を飾って楽しめます。

他の各部屋にも点在していますが、中間色調が大好きなので気分がほぐれて落ち着けるのです。難聴の辛さも軽減できる力を与えてくれます。

染料を混合して好みの色彩が出せた時が、創る過程で最も幸せを実感できる時なので、今年も染色へのこだわり

を大切にして地道に作品を創り出して行けたら。

「今年こそコロナが収束してくれますように！」

☆広報担当・兵庫県部長：庄司美絵



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます _(:_)_

結婚30年余、毎年おせち料理を作っています。重箱に小鉢を入れたり、京人参をかわいい花型とか、色々

と工夫しながら楽しんでいます。

ただ一つ残念なのは、黒豆がうまく出来なくてトラウマ、有名なお店で購入したものでごまかすことも。(笑)

お雑煮ですが、母方の島根では、海苔雑煮と小豆雑煮。小さい時から大好物でした。関西では、白みそを使った雑煮。京都は、頭芋(かしらいも)を使いますが、ここ西宮は、里芋です。出汁と白みその合わせ方が難しく、味付けに苦労しています。2022年は密に気をつけて、笑顔で再会を楽しみにしています。



☆監事・大阪市部長：高田郁代

我が家の正月料理

病院で栄養士をしていたので、年末年始も出勤があり、出勤でない日は大掃除で精いっぱい。お節料理はずっと市販品でした（家族には申し訳なかったけど）

定年退職をしてからもこの習慣は続いているのですが、黒豆だけは作るようになりました。生協で丹波の黒大豆を購入し、大晦日に煮ます。レシピは小林カツ代さんのもの一筋。火加減に注意し、時間さえかければふっくらつやつやの黒豆が簡単にできあり。自分で作れば甘さの調節も自由自在で安心して食べることができ、夫もお気に入りです。

☆相談役・九州ブロック長：永末淑子（福岡市）

〈我が家の正月料理〉 「博多雑煮」の作り方。（準備する）

1. 元旦の数日前から、なべに水、コンブ、焼アゴ、しいたけを入れ、だしをとる。
2. 別に、里いも、大根、かつお菜、塩ブリの切身をゆでておく。
3. 元旦に雑煮を作る。
4. だしを取ったなべに、材料を入れて温め、雑煮椀に大根を敷き、丸もちを入れる。もちの上に、塩ブリ、里いも、人参、かまぼこ、しいたけ、かつお菜を入れ、熱いだしを入れて食べる。（だし汁には、しょうゆ、塩で味をつけておく。）

※塩ブリで、もちを食べるのが、とても美味しい！



☆北海道札幌市・窓口：馬場順子

本年もよろしくお願ひします。

おせち料理の思い出ですが、母は104才で亡くなりましたが毎年、元旦には私の4人兄弟家族が実家に集まり、母のおせち料理を堪能しました。

母は、来年も皆に食べて貰えるかな？家族が美味しそうに食べている顔を見るのが幸せだと言いつつその言葉に甘えていました。

今はお金さえ出せば立派なおせち料理を用意出来ますが、昔の母は全部手作りで大変だったろうなと今更に母に感謝です。

私も家族にいつまで元気に作れるかなと、お正月には子供や孫の為に母の味と同じうま煮や膾（なます）、黒豆、茶碗蒸し、昆布巻きなどなどを作っています。



いつまでも、元気で来年もおせち料理を作れますように。

☆東京都・部長：明田美奈子

「正月料理」

我が家の正月はお節料理でなく、おでんとなって30年以上になります。

結婚して数年は実家のお節料理を見習って作っていましたが、3人の子供たちはあまり食べない。勿体ないので、おでんとモツの煮込みを作ってみたら好評。それ以来、正月は煮干しや鶏ガラなどからの出汁で10種類以上の材料を用意し大きな鍋3~4つに分けて、おで

んを2日間じっくり煮込んでおきます。

それぞれの孫たちも大根やつみれ等をばあばの味がすると喜んで食べてくれます。残ったら3世帯が分け合って持ち帰るのが習わしになっています。

☆川崎市・部長：伊藤雅子

我が家の正月料理

お正月料理は子供のころから母の手作りを食べていましたので、有名店のおせち料理も口に合わないのがあります。色々な材料で作る筑前煮は量も増えて食べきれない。お正月に欠かせないなます料理は大好きなので、神奈川県「三浦大根」を2本切ります。筑前煮となます料理はお正月の3日にお店で姉妹と会食しますので、その時のお土産に持たせます。毎年、従姉妹からも美味しいと喜ばれています。

☆群馬県・窓口：飯塚糸子

小学生の頃の事です。実家（前橋）のお正月のお餅は鏡餅、のし餅は白、栗入り、海苔入りの三種。大きなかまぼこ型で海苔を入れたお餅をついてもらいます。

三が日の朝は白餅を短冊形に切って焼いて、2本ずつ木製のお皿にのせて神棚、仏様、稲荷様など家の神様におそなえします。そのお餅をとっておいて七草粥に入れて頂きます。

元旦は家族でおとそを頂き、おめでとうで始まります。

質素なおせちでしたが、母の炊いた黒豆は絶品でした。



☆千葉県・窓口：高野久乃

「お雑煮とがめ煮」

私の出身地は静岡県です。静岡県といってもご存知のように東から西まで太平洋岸に長く広がっています。県内は東部・中部・西部に分かれていて、言葉（方言）や食生活などは全く違ってきます。私の出身地は東部地域です。田舎なのですが不思議と拘りのお正月料理はなかったようです。お雑煮は醤油ベースに大根、白菜、里芋を柔らかくなるまで煮て焼かないお餅を入れとろみがついた汁に荒削り節をのせていました。綺麗な雑煮とはかけ離れた見た目なのですが今でもこのトロツとしたお雑煮が好きです。

毎年必ず作るのは義母から引き継いだがめ煮です。義母は佐賀の出身なので筑前煮をがめ煮というそうです。

この2品があるだけで息子達はお正月に帰って来ます。

見た目キレイなおせちは少量でよいので料理人さんのおせちを購入しています。

☆栃木県・窓口代行：矢野美津子

栃木は女性部がないため事務局亀山が窓口で対応させていただいていますが昨秋突然体調を崩されて休んでいます。そのため僭越ながらわたくしが代行として引き受けさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて我が家のお正月料理は定番の手作りおせち料理ですが けんちん汁と粕汁も定評が

あります。粕汁は酒粕と秋鮭の切り身に旬の野菜などをたっぷり入れた我が家の味で身体も温まります。

残念ながら今年は喪中のため新年のあいさつはありません。なので挨拶抜きで料理を食べます。皆様にも新年のご挨拶を申し上げます。何卒ご了承くださいますようお願いいたします。

皆様にとりまして本年も益々お元気でご活躍されますこと心からお祈り申し上げます。

☆新潟県・窓口：大西邦子

新潟県の郷土料理でお正月にはのっぺいを作ります。貝柱でだしをとり、干しいたけ、里芋、人参、竹の子、コンニャク、かまぼこ、絹さや、銀杏、塩サケなど入れた醤油仕立ての煮物です。里芋が入ることとろみができます。碗によそってイクラをのせて完成です。汁が濁らないことも大事なことです。

話はおわかりますが、NHK朝ドラの『カムカムエヴリバディ』は主人公のおはぎ作りの物語です。我が協会の年配の男性が作るおはぎは絶品です。協会の集まりで振舞ってもらっています。おはぎはあんこがきめ手で、こしあんを作るときは3回もあく抜きをするそうです。何事も手間をかけることが大切なのですね。

☆三重県・窓口：疋田敦子

皆様はお雑煮はどのような作り方で食べますか？



私の実家のお雑煮は出汁にもち菜とお餅を入れ、煮込むというシンプルなお雑煮です。もち菜を直接入れて煮込むのでだし汁にもち菜の雑味が出ることと、菜の色が悪くなってしまうので私は正直大雑把な作り方の母の雑煮は好きではありませんでした。

この作り方は祖母が昔からこのやり方で作っていて父がこの味が好きだからだそうです。そして、嫁入りして20数年経ちました。

母は今でもお正月には昔ながらの作り方でお雑煮を作って家族に出します。昔は苦手でしたが今は不思議な事にとっても美味しく感じます。

舌が色々な味を経験することで繊細な味が分かるようになったからだと思います。

母の雑煮はあたたか味があるのです。懐かしい母の雑煮、ずっと作り続けてほしいです。



☆奈良県・部長：藤岡央子

我が家のお節料理について

明けましておめでとうございます。今年こそはコロナが収束して、マスク着用の必要が無

い世の中になりますように…

我が家のお節料理ですね、私は京都生まれなので京風と言えは良いのでしょうか？

母が北海道の苫小牧出身なので、よく作るお節料理は棒鱈と小芋の煮物でした。味付けは少し甘めの薄口です。大晦日、元旦の直前まで大鍋にくつつと煮える棒鱈の匂いが台所中に漂っていた事を、師走になると思い出して、無性に母の棒鱈が食べたくなります。

今は自分なりにあの味付けを再現しようとしていますが、記憶の中にある母の味にはなかなかたどり着けません。以前、円山公園の芋坊さんで海老芋と棒鱈を食べたのですが、それはそれで美味しかったのですが、私にとっては母の“棒鱈のたいたん”が一番のご馳走なのです。

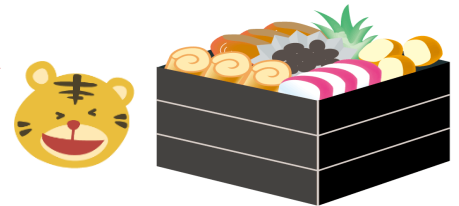
注…「たいたん」京ことばで、「煮る、炊く」の意味があり、または煮物の事をいう。

☆大阪府・部長：橋川みえり

お重箱の中身

子供の頃、お正月に出されたお重箱は厚さ5ミリはある陶器製で3段あり、蓋もどっしりと重いものでした。その箱の中は毎年、2段は煮しめ、1段は黒豆がぎっしり入っていました。それが普通だと思っていたので、結婚して初めて、色とりどりに少しずつ盛り付けられた義母の手作りのおせち料理を見た時、「これが一般家庭のおせち料理なのか?!」とカルチャーショック。そんな料理上手な義母に、私の実家のおせち料理の実態を決して話すことはありませんでした。

すごい！
きれいで美味しそう



☆益田市・窓口：岡崎圭子

「我が家の正月料理」

我が家では、特別な「おせち料理」は作らずです。

会合がある時は、かすのこ、ごまめ（田作り）、黒豆煮の祝い三種を作る程度です。これも地味ながら結構時間を要することです。

以前は、巻き寿司、お刺身なども作っていたと思います。思えば実家の具沢山のお煮めめや、たたきゴボウ（関西風な言い方）、焼きハモ等があり、懐かしく思い出しました。

今は手抜きで、既製のおせち料理を注文することで淋しいです。



地域の活動

長年の活動をふり返って

群馬県中途失聴・難聴者協会 前女性部長 渡辺澄江

私が群馬の協会に入会しましたのが平成3年3月の「耳の日のつどい」でした。

平成5年に協会長に推されまして、己むなく引き受けることになりました。それから間もなくして、東京都の名倉女性部長様から、「関東に婦人部を作りたい」との呼びかけがありました。それに答えて、関東の各県から代表者が東京都の福祉会館に集い話し合い、関東婦人部の活動が始まりました。（当時は女性部でなく婦人部と言う名称でした。）

第1回目の研修会は、長野県の温泉旅館で行われ、和室で車座になり話し合ったのを思い出します。それからは毎年各県持ちまわりで研修会を行って来ました。群馬でも伊香保温泉にて、ささやかな会を行うことができました。

全国婦人部との関わりは、婦人部の編さんした「助言集」に、体験談を載せて頂いたことから始まりました。東京都の日本青年館で行われた「全国難聴婦人研究大会」の折に分科会で体験発表をさせて頂きました。この時、河合婦人部長様から声をかけて頂きお役も担当させて頂きました。

各地での研究大会に役員として参加するようになり、交流を深めてきました。交流が深まることで、聞こえていた時以上に、知人・友人が増えて行きました。お手紙やFAXのやりとりも楽しみでした。

愛知での研究大会では、分科会の座長を担当させて頂きました。埼玉での研究大会では分科会のまとめの発表を担当致しました。

それぞれの役割を担当するのは大変でしたが、よい体験をさせて頂いたと感動しております。各地での観光も良い思い出となっています。時々思い出しています。

在任中は多くの皆様からご支援ご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

※渡辺澄江様は、令和2年度をもって群馬県女性部長を勇退されました。

貴重なお話をつづられましたこと、心よりお礼申し上げます。

～アンケート～ 『全難聴女性部の活動状況について』

当部は、平成元年に結成以来、30年余と続いてきました。ひとえに女性会員並びに諸先輩方のご活躍の賜物です。

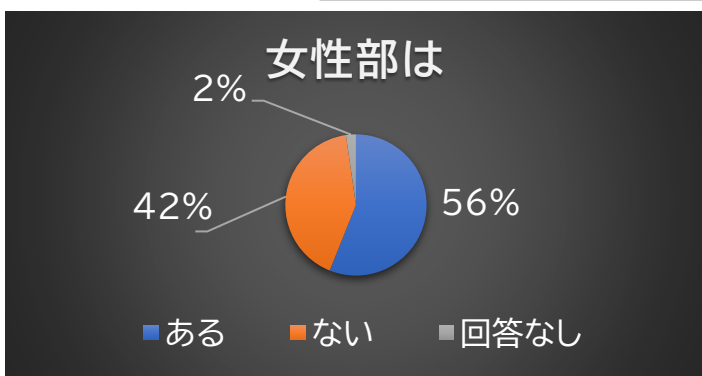
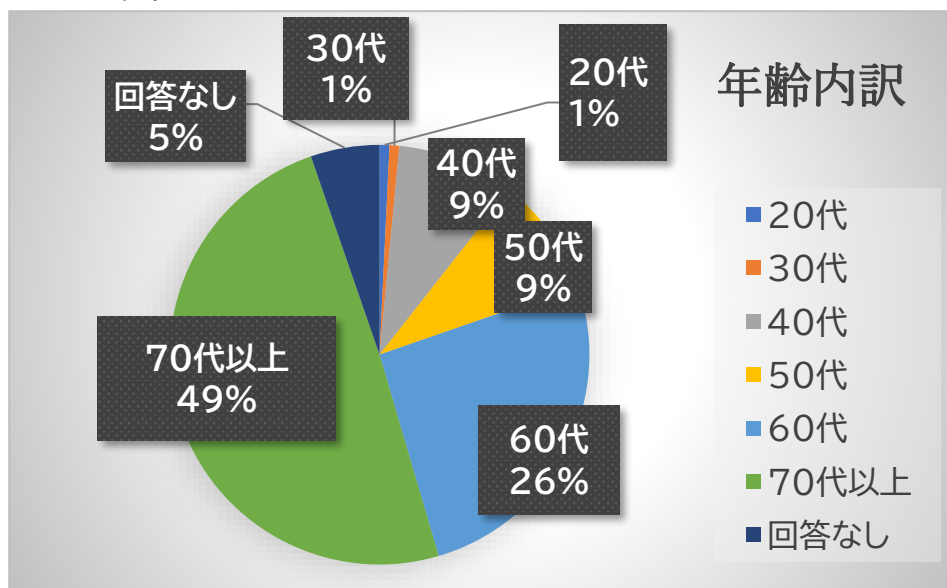
しかし、新型コロナウイルス感染拡大が進み、全難聴福祉大会や各ブロック研修会が中止や延期となりました。当部も対面での役員会議や総会を開催できず、「集まる場を作り、課題を共有し、改善につなげる」といった活動が展開できません。そこで、「女性会員が何を思い、何を課題と感じているか」をつかみ、状況改善、女性部の継続・イメージアップなどのために皆さんのお知恵を借りたく、本実態調査を実施いたしました。

短期間での取り組みではありましたが、ご回答いただいた会員の皆様には、心より感謝申し上げます。

機関誌『難聴者の明日』第194号女性部ページ原稿締切後に提出された回答、掲載しきれなかった主な自由回答を含めました。

Q1. 回答者数 … 132 人

20代… 1人
 30代… 1人
 40代…12人
 50代…12人
 60代…34人
 70代以上
 … 65人
 回答なし
 … 7人



Q2. 所属難聴者協会に
 女性部はありますか？
 (誤認に基づく回答もそのまま
 集計)

ある… 74人
 なし… 55人
 回答なし…3人

女性部がない理由 (以下、自由記述は主な内容を掲載)

- ・ 会員数が少ない
- ・ 高齢化
- ・ 部長、理事のなり手がいない
- ・ 今の時勢に、男性、女性の区分を作る必要はないと思う
- ・ 別の部に女性担当の企画がある
- ・ 会員のほとんどが女性

Q3. 全難聴女性部の活動はご存知ですか？

知っている…106人 知っているが、詳しくは知らない…2人
 知らなかった…21人 回答なし…3人

Q4. 今の全難聴女性部のイメージは？

- ・ 活動的で明るいイメージ。親しみやすさを感じる。身近な存在。
- ・ 女性部のある協会とない協会の差があって、ある所は活発で、にぎやかなイメージ。
- ・ 全難聴本体よりもパワーにあふれている。
- ・ あまり地方に伝わってこない。コロナ禍のためと思われる。

- 入ったばかりの頃はイベントでバザーばかりやっていると思った。
- 印象づけるもの、記憶するものが希薄に感じる。真剣に取り組めば、イメージは変わらと思う。

Q5. 活動についてのご要望、ご意見

- 若い会員を増やして欲しい。
- 『女性部だより』に身近なテーマを載せて欲しい。
- 昔のように女性研究大会が開けると良い。
(他、各ブロックとの連携を築き、昔みたいに懇親会があれば)
- コロナ禍で、会員の活動意欲が薄れている。高齢化等、どのように打破していくかが問題。
- 活動について誰もが理解できるよう各協会にアピールを。
- コロナ禍に負けず働き、コミュニケーションが取れるように努力、健聴者と難聴者関係なく、(難聴女性が)輪の中に入れるような社会にしてほしい。
- 『全難聴女性部だより』を協会機関紙に掲載。活動状況がわかる。

Q6. 機関誌『難聴者の明日』女性部ページに載せて欲しいこと

- 各地で頑張っている女性の紹介
(仕事や育児、介護で頑張っている等)
- 女性部のある県の活動紹介
- 今までの女性部活動歴史を知りたい
- 地域の観光地や特産物のなどの紹介
- 一人暮らしで孤立しないようネットワーク(近隣県も含む)紹介
- ジェンダーに敏感なこの時代に、女性部の存続理由が分かるような記事を。女性難聴特有の困りごと、改善方法

Q7. 全難聴女性部オリジナルグッズはあった方がよいですか

「あった方が良い」「なくてよい」「どちらでも」と色々でしたが、グッズの具体的回答のみ抜粋します。

クリアファイル、バッジ、文房具類(付箋、シール、メモ用紙)、雑貨(インナー、タオル)耳マーク類(ペンダント、ストラップ、ブローチ)、のびパスケース、ホワイトボード、福祉大会女性部オリジナルグッズ、ゴム腕輪

Q8. 福祉大会分科会を行う場合への希望

介護が49人で最多。

仕事は15人(定年後の生き方、メンタルヘルス)。

その他、対人援助・コミ、老後の生活・終活、地域協会の活性化、人工内耳、補聴器の聴覚補償、健康・美容、差別と法律、UDトークやzoom活用法、中途失聴者の経験談、趣味、教養、旅行など、多彩でした。

幅広い年齢層から貴重な回答をいただき、課題も見えてきました。アンケートの結果を役員間で検討し、今後の活動に生かしたいと思っております。今後とも全難聴女性部をどうぞよろしくお願いいたします。

事務局だより

今年もよろしくお願い申し上げます



1. 各地域の変更について

- ①栃木県窓口 矢野美津子さんが窓口代行となりました。
- ②神戸市女性部 休部

2. 令和4年度役員会・県部長会議・総会のお知らせ（予定）

日 程：令和4年7月1日（金）～7月3日（日）

7月1日（金）午後～2日午前 役員会

7月2日（土）午後 県部長会議、総会

7月3日（日）観光（希望者）

場 所：長野県松本市松南（しょうなん）地区公民館

以上、従来の日程を踏襲した予定です。窓口も出席可。

社会情勢によっては書面とオンラインによる会議となるかもしれません。

3. 「第26回全国中途失聴者・難聴者福祉大会in おんせん県おおいた」へのバザー開催について（注意：日程・場所が変更になりました）

日時：令和4年10月15日（土）～17日（月）観光までの日程

女性部バザーは、10月14日に準備、15日～16日の予定

バザー提供品は、使用済、陶器など割れやすいもの、食料品以外の品物を募集してきました。募集詳細及び送付方法等、令和4年度総会以降にお知らせします。

当部へのご意見、ご要望などありましたら事務局までお知らせください。

事務局長：佐藤 緑（茨城県）F A X：03-3889-1031

Eメール：tori72520@gmail.com

編集後記 新年の挨拶は、今号から窓口の方にもお願いしました。締切までにいただいた素敵な原稿の数々により、紙面を彩ることができました。大変ありがとうございました。